

令和6年9月25日開会

第770回むつ市教育委員会会議

参 考 資 料

報告第1号          1頁



報告第一号 参考資料



# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

## □1 調査の目的

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものであり、次のことを目的としている。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## □2 調査の対象学年

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

## □3 調査の内容

### （1）教科に関する調査 【小学校：国語、算数 中学校：国語、数学】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

### （2）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

小・中学校ともに、タブレット端末からオンライン回答

- 児童生徒に対する調査  
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- 学校に対する調査  
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## □4 調査期日

教科に関する調査：令和6年 4月18日（木） ※全国一斉実施

質問調査：小学校 令和6年 4月22日（月）～ 4月25日（木）の決められた日

中学校 令和6年 4月11日（木）～ 4月17日（水）の決められた日

## □5 調査を実施した児童生徒数

	児童数	生徒数
全国（公立）	947,579人(98.7%)	875,952人(96.9%)
全国（国立）	6,173人(0.6%)	9,291人(1.0%)
全国（私立）	6,637人(0.7%)	18,805人(2.1%)
青森県（公立）	8,174人	7,992人
むつ市	392人	340人

## □6 学力調査の結果

### 1) 全国の平均正答率を「100」とした到達率及び全国・青森県・むつ市の平均正答率

※報道等による順位競争の過熱化を防ぐため、平成29年度から、都道府県・市町村の平均正答率の数値は整数値での発表となっている。

※教科間及び学年間の定着度の差異を把握するため、ここでは上記指標を用いている。

### ■①令和6年度 小学校6年生



#### 国語、算数

全国平均、県平均を下回る。  
特に、算数が課題である。

#### ☆令和5年度平均正答率

	国語	算数
全国	67.2	62.5
青森県	70	63
むつ市	65	58

#### \* 令和6年度平均正答率

	国語	算数
全国	67.7	63.4
青森県	70	64
むつ市	65	60

#### ◇令和5年度青森県学習状況調査結果

	国語	算数
青森県	64	58
むつ市	60	52

### ■②令和6年度 中学校3年生



#### 国語、数学

全国平均を下回る。  
国語は県平均と同数値であり、  
数学は県平均を上回っている。

#### ☆令和5年度平均正答率

	国語	数学
全国	69.8	51.0
青森県	70	49
むつ市	67	44

#### \* 令和6年度平均正答率

	国語	数学
全国	68.1	52.5
青森県	56	50
むつ市	56	51

#### ◇令和5年度青森県学習状況調査結果

	国語	数学
青森県	58	42
むつ市	58	41

☆→前年度の小学校6年生及び中学校3年生との異集団比較

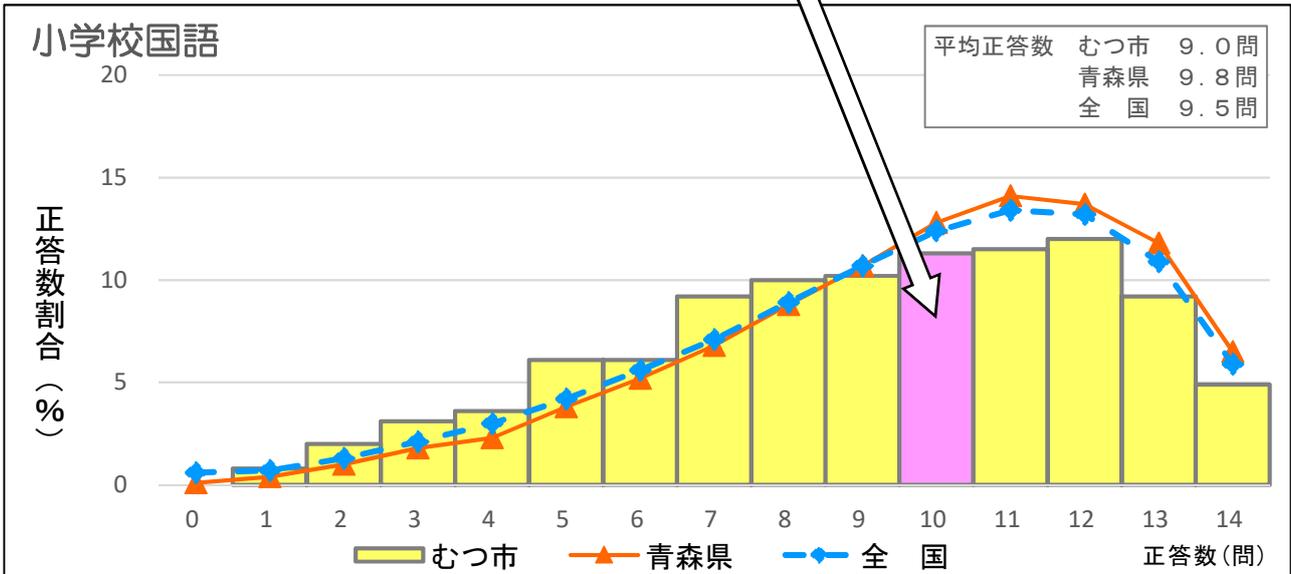
◇→前年度の青森県学習状況調査との同一集団比較

## 2) 各教科の正答数分布グラフ (むつ市→柱状グラフ、青森県・全国→折れ線グラフ)

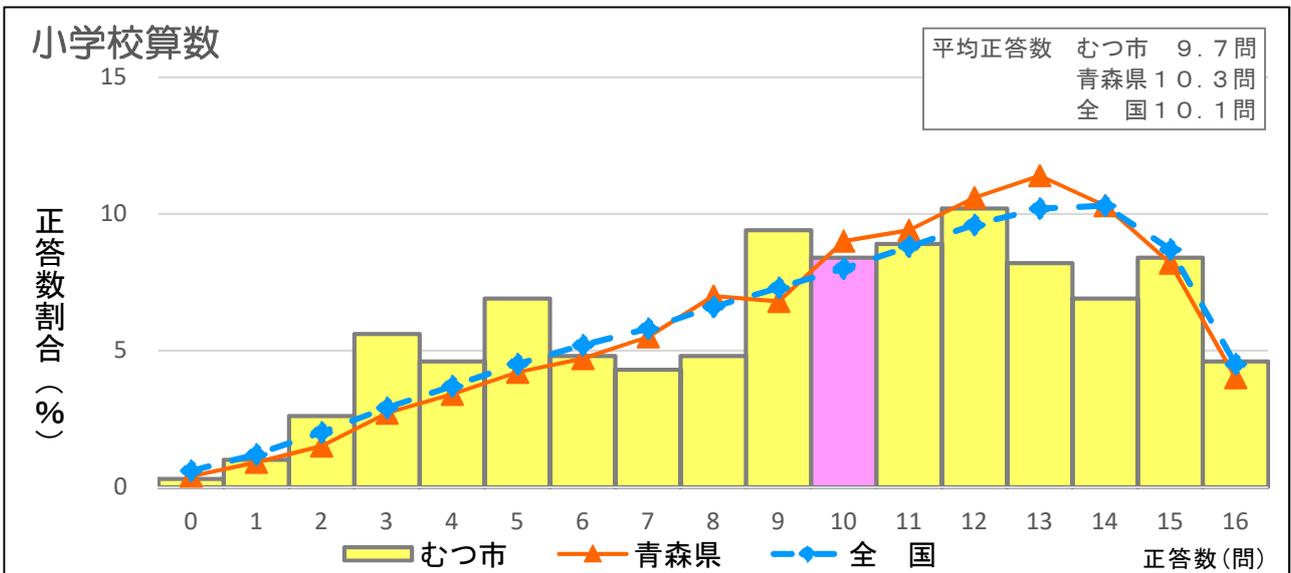
※横軸は正答数、縦軸は児童生徒の割合を表している。

二極化には至っていないものの、下位が厚く上位が薄い状況は、小中・各教科とも共通している。全国学力・学習状況調査の実施学年・教科に限らず、自校児童生徒の定着状況を把握し、授業のポイントの見直しや補充・発展指導の工夫に取り組むことが望まれる。

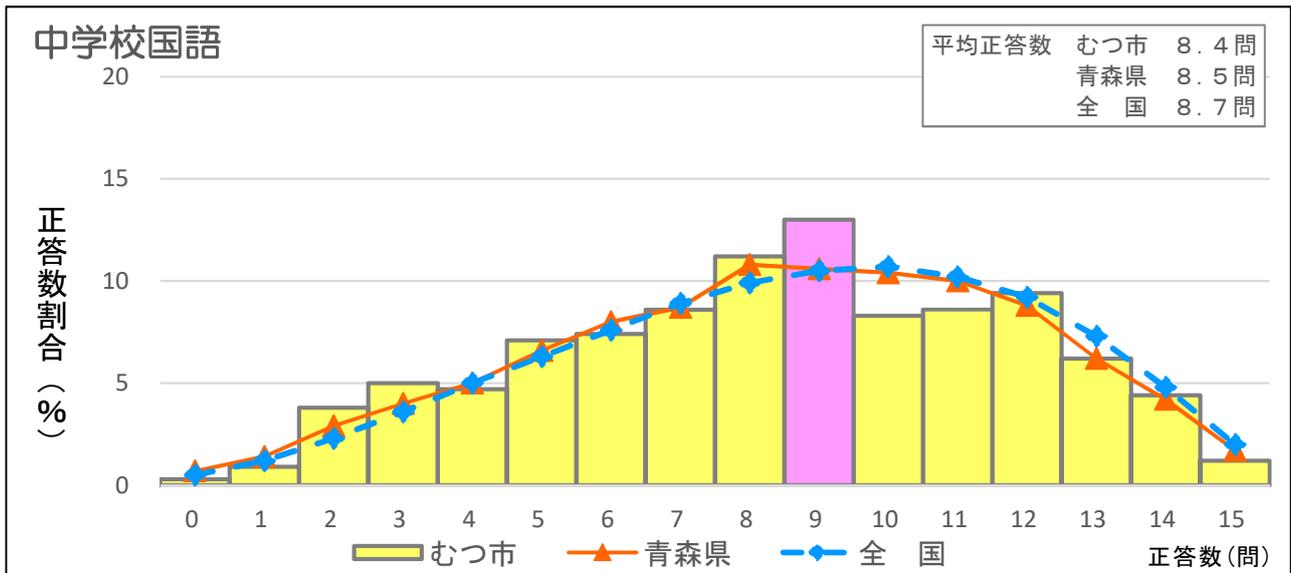
※濃い色のグラフは、県及び全国の平均に到達するために必要な正答数を表している。



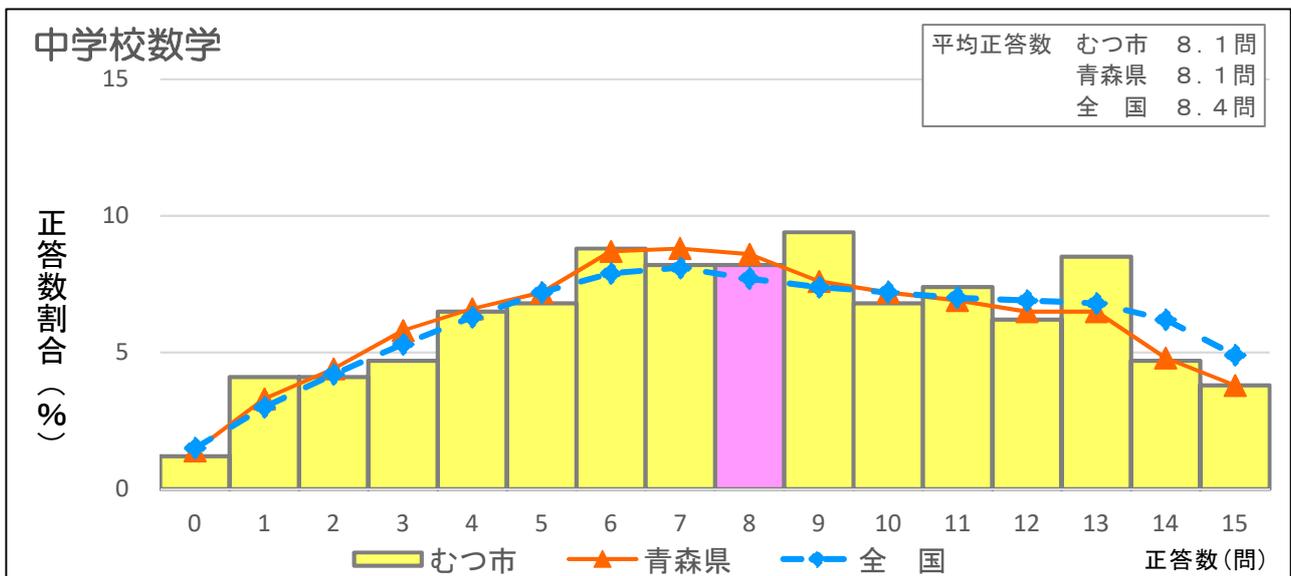
\* 全国、青森県と類似の形状となっている。下位層の底上げに向けて、個別指導やデジタル教材等を活用した学習など、確かな理解と定着を図る授業づくりが必要である。



\* 全国、青森県と比べて下位層の割合が高く、中～上位層の割合が低くなっている。下位層の底上げが求められるため、習熟度別学習を含め、児童生徒の定着度を確かめながら個別・最適化を目指した授業を展開することが必要となる。補充についても、個に応じた指導等の工夫が望まれる。



\* 全国、青森県と類似の形状となっている。上位層の割合を更に高めるために、個別指導が必要な児童生徒に配慮しつつ、高いねらいをもとにした授業を展開する必要がある。



\* 全国、青森県と類似の形状となっている。下位層の底上げが求められるため、習熟度別学習や個別指導、デジタル教材等を活用した学習を通して確かな定着を図る必要がある。

## 小学校 6 年国語

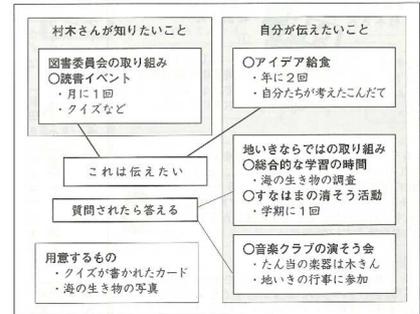
### 身に付いている力

- ① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる力が身に付いています。
- ② 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力が身に付いています。

### 育てたい力と手立て

- ① 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する力  
(5・6年 A話すこと・聞くこと(1)ア)
- ② 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力(5・6年 A話すこと・聞くこと(1)ウ)  
→ 話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する学習がより一層必要です。また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、視線や指示の仕方など、表現を工夫する学習も大切にしていきたいところです。

【和田さんのメモ】



- ③ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える力(5・6年 C読むこと(1)イ)  
→ 学年の系統性を意識し、直接的な描写や暗示的な表現などの表現の仕方に注意しながら想像を豊かに読む学習をていねいに指導したいところです。

## 小学校 6 年算数

### 身に付いている力

- ① 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しています。
- ② 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する力が身に付いています。
- ③ 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる力が身に付いています。

### 育てたい力と手立て

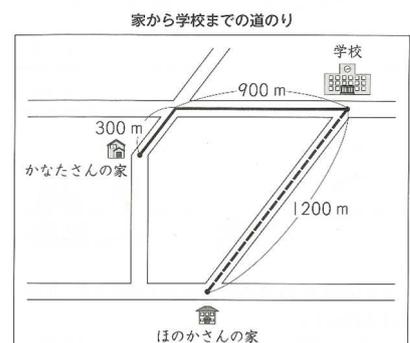
- ① 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力(3年 A数と計算(3)イ(ア))  
→ 問題場面の数量の関係を図や式を用いて場面と関連付けたうえで、計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫する学習を大切にしていきたいところです。

- ② 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す力(3年 B図形(1)ア(ウ)、イ(ア))(5年 B図形(4)ア(イ)、イ(ア))  
→ 図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考える学習がより一層必要です。



- ③ 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力  
(5年 C変化と関係(2)ア(ア)、イ(ア))

- 示された場面を解釈し、道のりが等しいことを基に、時間と速さの関係について考察し、表現する学習をていねいに指導したいところです。



## 中学校 3 年国語

### 身に付いている力

- ① 必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力が身に付いています。
- ② 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える力が身に付いてきています。

### 育てたい力と手立て

- ① 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する力(2年 C読むこと(1)ウ)
- ② 具体と抽象など情報と情報との関係について理解する力(2年 知識及び技能(2)ア)
- ③ 目的に応じて必要な情報に着目して要約する力(1年 C読むこと(1)ウ)
  - 説明的な文章を読む際、文章の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりという特徴を踏まえて読み、その理解が恣意的なものとならないよう、叙述を基にその構造を適切に捉えることが大切です。また、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする際には、生徒一人一人の理解や解釈が適切であるかを検討する場面を設定し、必要に応じて修正したり更新したりすることができるように指導することが重要です。そのためにも、学習指導要領解説に示されている内容を読み、生徒の力を高めるための適切な言語活動を設定する学習が大切です。
- ④ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する力(2年 B書くこと(1)ウ)
  - 「書くこと」の指導計画の作成に当たっては、実際に文章を書く活動を多くすることが必要です。その際、〔知識及び技能〕の各指導事項との関連を図るとともに、生徒が日常の書く活動に生かすことを意識しながら学習できるように指導することが重要です。そのためにも単元で取り上げる指導事項に応じて言語活動を工夫することがより一層必要です。

ア 「あの日から数日が過ぎた。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。  
 イ あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

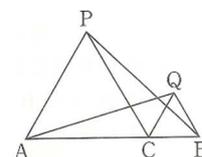
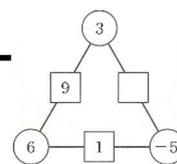
## 中学校 3 年数学

### 身に付いている力

- ① 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の力が身に付いています。
- ② 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈する力が身に付いています。
- ③ グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する力が身に付いています。

### 育てたい力と手立て

- ① 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す力(2年 A数と式(1)ア(イ))
  - 事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明するために、事象における数量やその関係を、文字を用いた式で表す学習を大切にしていきたいところです。
- ② 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力(2年 Dデータの活用(1)イ(ア))
  - 日常生活や社会の事象を考察する場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する学習をていねいに指導したいところです。
- ③ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力(2年 C関数(1)イ(イ))
  - 事象中の関数関係を見だし考察する場面で、問題解決の方法を説明する学習を積極的に取り入れたいところです。
- ④ 筋道を立てて考え、証明する力(2年 B図形(2)イ(イ))
- ⑤ 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす力(2年 B図形(2)ア(イ)、イ(ア))
  - 図形についての考察場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明したり、調べたことを振り返って新たな性質を見いだしたりする学習をていねいに指導したいところです。



## □7 質問紙調査の結果（本市の実態）

### 【全体考察】

下記の項目において「○」と示しているものは、全国や県と比較してポジティブな評価が上回っている本市の児童生徒の強みであり、「◆」は全国や県との「比較においてポジティブ評価が低い傾向であり、支援等対策が必要と思われる弱みの項目である。

### <挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 先生が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童生徒が多く、全国平均よりも高い。また、先生が、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思う児童生徒も多い。先生方が児童生徒としっかり関わることで自己肯定感の高まりにつながっている。
- 将来の夢や目標をもっているという回答は、小学校6年生、中学校3年生ともに県平均、全国平均より高くなっている。
- 多くの児童生徒は、人が困っているときに進んで助ける、いじめはどんな理由があってもいけないことだ、人の役に立つ人になりたいと考えている。
- ◆困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した児童生徒は約70%で、県平均よりも低くなっている。今後、学習面だけでなく様々な悩みをいつでも相談できる環境づくりと児童生徒にSOSの出し方を身に付けさせることも指導の観点として位置付ける必要がある。

### <学習習慣、学習環境等>

- 多くの児童生徒は、毎朝同じくらいの時刻に起き、朝食を食べるなど、規則正しいリズムで生活している。
- ◆平日のテレビゲーム（携帯式のゲームや携帯電話でのゲームを含む）の時間とSNSや動画視聴の時間が県平均と全国平均を上回っている。特に、1日当たり4時間以上と回答した児童生徒が約20%である。また、学校の授業以外での勉強時間は、県平均と全国平均に比べて短い。
- ◆新聞を読んでいる頻度において、中学校3年生は県平均と全国平均を上回っているが、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した生徒は約70%である。小学校6年生は県平均と全国平均を下回っており、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童は約80%である。新聞や活字に触れる機会を増やしていく工夫が求められる。

### <ICTを活用した学習状況>

- 多くの児童生徒が、学習の中でパソコンやタブレットなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと思っており、実際の使用についても、週3回以上使用していると回答した割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに県平均、全国平均と比べて高くなっている。今後も積極的な活用に向けた支援を継続していきたい。

### <主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 多くの児童生徒が、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると捉えている。日頃から「話し合い活動」を取り入れるなど、工夫した授業づくりを行っている成果と考えられる。
- ◆自分の考えがうまく伝わるように話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童生徒は約70%である。自分の考えをもつこと、必要な情報を選択・整理して考えを発表する活動の工夫が求められる。

<総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳>

- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童生徒はともに90%を超えている。学級をよりよくしようという意識をもって学校生活を送っていると考えられる。
- 道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒はともに90%を超えている。多くの学校で「考え議論する道徳」を意識した授業が展開されていることがうかがえる。

<学習に対する興味関心や授業の理解度等>

- 多くの児童生徒は、どの教科の授業も大切だと考えており、将来、社会に出たときに役に立つと回答している。
- ◆勉強が好きだと回答した児童生徒は、国語及び算数・数学において70%未満で、特に、算数・数学については、約60%と低くなっている。題材を工夫したり、学習したことを普段の生活でどのように活用できるかを児童生徒に考えさせたりするなど、児童生徒の興味・関心を高めるようにする必要がある。
- ◆書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたと回答した児童生徒の割合は、県平均、全国平均と比べて高くなっている。普段から書く活動を取り入れることはもとより、最後までしっかり書かせるための手立てが求められる。

【総括】

上記の結果から、当市の児童生徒の意識は以下のように考えられる。

当市の児童生徒は、自己有用感が高く、将来に対しての夢や目標も比較的もち合わせている。また、困っている人に対しても助ける気持ちやいじめに対しても理由を問わず「やってはいけない」という気持ちがあり、さらに、人の役に立ちたいという心も強くもっている傾向がある。

しかし、自分が不安なときや困っているときに周囲の大人に相談できない児童生徒が少なからずおり、この点のサポートが課題となっている。

学習習慣に関しては、授業時間以外での勉強時間が短い傾向にあることが課題として挙げられる。ゲームの時間とSNSや動画視聴の時間が長い傾向にあることも関係していると思われるため、保健体育や学級活動などでの健康に関する学習と関連付けながら指導していくことが喫緊の課題である。

授業に関しては「話し合う活動」は取り入れられているものの、学んだことを生かし、自分の考えをまとめる部分は弱いと認識している児童生徒が多い。このことから授業では、課題に対して自分の考えをもたせる展開を意識的に盛り込む工夫が求められる。

学習に対する興味・関心については、どの教科も大切であり将来に役立つとは思っているものの、教科そのものへの関心が低く、また、記述を求められる問題に対しては諦める傾向の児童生徒も少なからず存在する。学習（教科）に対する興味・関心や臨む態度の育成を図るためにも、題材との出合い方や授業展開の工夫など、知的好奇心を刺激する工夫が必要だと思われる。

当市の児童生徒の傾向は、これまで同様「心はいいものをもっているが、その心を生かす基本的な力とスキルに足りない部分がある」ということが言える。これらの課題の解決には、一人一人の心に寄り添う個別の支援と授業における知的好奇心を刺激する工夫等が必要ではないだろうか。

## □8 学力と相関関係があった質問項目

質問紙の回答と学力の相関関係を比較した際に、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が、そうでない回答をした児童生徒の平均正答率よりも全教科10ポイント以上高かった内容である。

ただし、相関関係については、あくまでも「～が関係ありそうだ」という傾向を捉えるものであり、「正答率が高いのは～が要因だ」というように原因を特定するものではない。

### ■ 小学校6年生・中学校3年生 共通

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

### ■ 小学校6年生

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
- 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。
- 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

### ■ 中学校3年生

- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
- 1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

#### 【総括】

上記項目の意識が向上するような教育が日常的に行われる教育課程を実践していくことが、児童生徒の学力の下支えになると思われる。教科に関わらず、学校づくりの指標として捉えていくことが必要である。

## □9 むつ市教育委員会の学力向上の取組

### ○ 児童生徒の意欲向上に向けて

むつ市総合学力調査結果の個票の見方を示した資料を作成して、学校を通じて説明・配付し、事後の学習に生かすことができますようにしています。

※サンプル資料

教科	順位	得点	偏差値	学年
国語	52.0	52.7	52.7	52.7
数学	38.7	55.1	31.8	55.6
英語	91.2	70.5	90.0	74.0
社会	80.6	80.1	85.7	89.9
理科	52.6	57.2	58.9	70.0

【今の自分を知る】

- 自分の結果と、むつ市の結果とを比べてみましょう。
- 今回がんばった教科と、もう少し頑張る必要があった教科も確かめてみましょう。

【教科を知る】

- 各教科の、良かった内容・もう少しがんばる必要があった内容などめてみましょう。
- 得意な教科でも苦手な内容や、苦手な教科でも得意な内容なども確認してみましょう。

AI機能搭載のタブレット端末用ドリルを導入し、個々の正答率やむつ市総合学力調査結果を反映した問題に取り組むことができます。

英語への興味・関心を高めるために、英検の半額補助や、英検IBAの実施と英検ESGの推奨を行っています。(いずれも、受験案内や手続等に関する補助を実施。)

英検IBA

中学生全員を対象

英検ESG

希望する小学校の6年生を対象

### ○ 教員の指導力向上に向けて

各教科の授業づくりや就学事務、幼・保・小連携など、教員の指導力向上や学校運営及び教育活動の充実を図るための講座を開催しています。

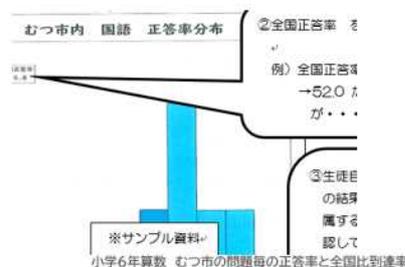
#### 令和6年度教職員研修講座等一覧

序	講座名	対象	内容
1	むつ市数学事務説明会・数学指針研修会 5月7日(火) 13:30~16:00 むつ市役所	むつ市内小・中学校教員 むつ市内幼稚園・保育所(所)等の希望者 〜むつ必修講座〜	むつ市の就学事務についての説明と、各学校や保育所・幼稚園等における数学指針の留意点等についての講義を行います。
2	学びの連携推進講座 7月23日(火) 13:30~16:00 教育研修センター	むつ・下北小・中学校教員 〜むつ必修講座〜	義務教育の共を見据えた教育活動の実践に向け、小・中学校の「総合的な学習の時間」が、高等学校の「総合的な探学の時間」にどのようにつながっていくのかを、むつ下北の各高等学校から情報提供させていただきます。

教員が、県外の最新情報を学ぶことによって、資質・能力を伸ばすことができるよう、研究大会への派遣助成を行っています。



むつ市総合学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果をもとにした資料を小・中学校に提供し、事後指導の充実を図っています。



計画訪問や要請訪問の他に、学校からの要望に応じて随時訪問や日常ミニ訪問を行い、学力の向上や生徒指導の充実など各校の取組を支援しています。

随時訪問

通年  
提案授業参観  
↓  
研究協議会等

日常ミニ訪問  
※指導案不要

通年  
日常の授業参観  
↓  
授業者との話し合い等

## ○ ICTの活用として

児童生徒にタブレット端末（または2 in 1 パソコン）を配付し、授業や家庭学習などの様々な場面で有効活用しています。



文部科学省「学びの保証・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」を活用しデジタル教科書を導入しています。



市内全小学5年生～中学3年生

希望する学校

学習や活動の一層の充実を図るために、児童生徒のタブレット端末（または2 in 1 パソコン）に随時、アプリを追加しています。



子供達の活動の可能性をひろげるために

市内の小・中学校に、電子黒板及び大型モニターを配備し、視覚的に理解しやすくしたり、考えを共有しやすくしたりしています。



## ○ 人員配置等による支援として

小中一貫教育非常勤講師を配置し、複式指導の解消や乗り入れ授業など、実態に即した指導を行っています。

（市内8つの中学校ブロックに1名ずつ配置）

小中一貫教育非常勤講師



スクールサポーター（学級担任等の指導をサポート）や、学校支援員（印刷や物品の準備をサポート）を配置し、児童生徒の活動を支援しています。

スクールサポーター



市内小学校8校、  
中学校4校に計36名

学校支援員



1年生が複数学級ある  
市内小学校3校に3名

外国語指導助手（ALT）を配置し、外国語活動や外国語、英語の授業をサポートしています。

ALT



5名で分担して、  
市内全小・中学校  
を訪問

## ○ その他

各校に新聞を配備し、新聞を読む習慣の育成や、授業での調べ学習等に活用できるようにしています。また、新聞記者が来校して授業を行う「出前授業（希望制）」も実施しています。



一般・児童生徒向けサイト



教職員専用ページ



ホームページ「むつ市教育委員会 学校教育課 情報ポータル」を開設し、市内小・中学校の紹介や、学習支援サイト、公募事業等を掲載しています。

学習に役立つコンテンツ・リンク  
指導に役立つコンテンツ・リンク

## □ 10 保護者の皆様方へ

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されました。保護者の皆様にとっても、お子様の学力の向上については大きな関心のあることだと思いますので、我々教育委員会では、こどもたちの学力向上に向けた取組を一層進めていきたいと考えております。

本市では、昨年度から新たな「むつ市学校教育プラン（令和5年度～令和9年度）」に取り組んでおり、推進目標として『郷土を愛し、高い志を持って 主体的に未来を切り拓く人づくり』を掲げております。また、『めざす学校像』の一つとして『学ぶ力を高める学校』に取り組んでいくこととしております。

デジタル技術の急速な進化など、こどもたちを取り巻く環境は変化が激しく、予測不能な状況となっています。その時代を生き抜くこどもたちの『学ぶ力』を高め、未来を切り拓く人材を輩出するために全力で取り組んでまいりますので、引き続き、ご協力、ご支援をお願いいたします。

特に、以下の点について、ご家庭でのご協力をお願いします。

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」を引き続きお願いします。
- ・タブレット端末の持ち帰りでは、家庭での約束事を決め、効果的な活用をお願いします。
- ・頑張らせて褒めてやることでこどもは伸びます。自己肯定感を高められるように、引き続きご家庭での温かい声掛けや励ましをお願いします。

## 【令和6年度に実施する各種学力調査について】

調査名	時期	対象	調査項目
全国学力・学習状況調査※ <sup>1</sup>	4月	小学校6年生	国語、算数、意識調査
		中学校3年生	国語、数学、意識調査
青森県学習状況調査	令和6年度から廃止		
むつ市総合学力調査※ <sup>2</sup>	4月	小学校4年生	国語、算数
		小学校5年生	国語、算数、理科、意識調査
		小学校6年生	国語、社会、算数、理科
		中学校1年生	国語、社会、数学、理科、英語
		中学校2年生	国語、社会、数学、理科、英語、意識調査
		中学校3年生	国語、社会、数学、理科、英語

※1 全国学力・学習状況調査については、理科と英語を3年に一度実施している。

・平成31年度（令和元年度） → 中学校で英語を実施

\* 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全教科未実施

・令和4年度 → 小学校及び中学校で理科を実施

・令和5年度 → 中学校で英語を実施

・令和6年度 → 小・中学校とも理科と英語は無し

※令和7年度以降の予定（文部科学省より）

		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
小学校	国語	紙 (従来通り)	紙	タブレット端末	タブレット端末
	算数				
	理科				
中学校	国語	紙	紙	タブレット端末	タブレット端末
	数学				
	理科	タブレット端末	タブレット端末	タブレット端末	
	英語	タブレット端末	タブレット端末	タブレット端末	

※質問調査については、令和6年度よりタブレット端末から回答

※2 むつ市総合学力調査は、ベネッセコーポレーションの業者テストを実施している。

※3 実施主体HPでの公表内容

国：全国平均、都道府県平均（整数値）